

秋の星空

【児童センター秋の星空10月号】

初秋になると、日暮れの時刻が早くなります。そのため、夜空が暗くなると天頂から西空にかけて“夏の第三角”の一つ、「こと座」のベガ（一等星）が頭上で青白く輝きます。「ペガサス座」や「うお座」など、秋の代表的な星座が南天に移動してくるのは夜の10時くらいになります。また、夏の星々では一等星が目立ちますが、秋の星々はさみしく一等星は“フォーマルハウト”（みなみのうお座）しかありません。

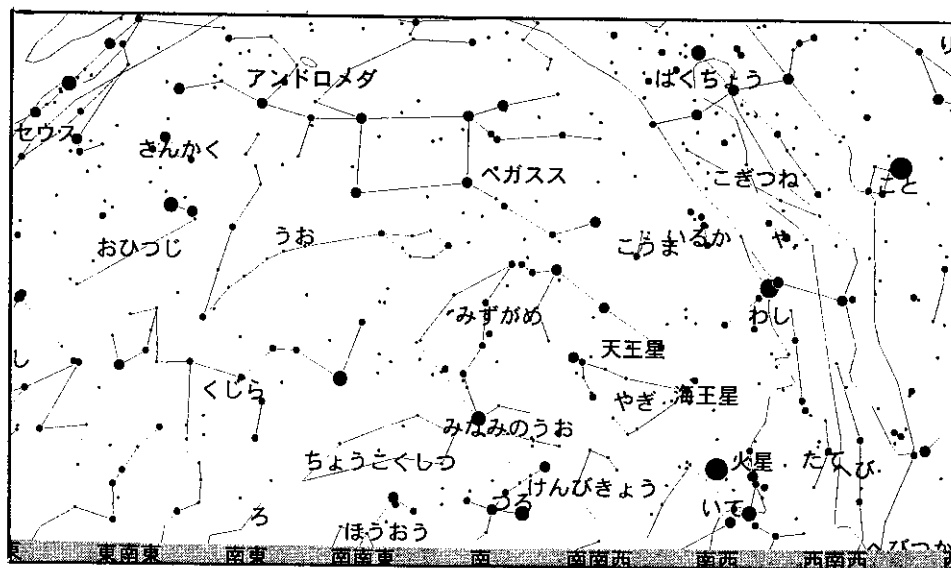
この一等星“フォーマルハウト”は「ペガサス座」の四辺形の右（西側）の辺を下に延ばした所に見ることができるので少し暗い空で確かめて下さい。

夜半の東天には、木星・土星が姿を見せるようになります。

＜10月の星空カレンダー＞

2日（火）○満月
10日（水）●下弦
17日（水）●新月
24日（水）○上弦

右の星図は、10月中旬の夜9時ごろ、南の方向を中心に見た星空です。



☆☆☆☆☆☆

《天文現象》

☆土星：仙台よりも北の地方で土星食（土星が月に隠れる現象）が10月8日未明に起こります。これは、1997年10月16日以来、4年ぶりです。ハッピー・マンデーの実施で、日曜・月曜が休みになる方は東方や北海道でこの珍しい現象をお楽しみください。（新潟県佐渡、両津市でもみることができます）

☆木星：夜半の東天で土星と並んで輝きます。10月10日午前1時頃、下弦の月のすぐ下でマイナス2等星の輝きとなりますから、月を目じるしとして探してみましょう。

☆金星：「明けの明星」として東天低く見えますが、日の出30分前と限られた時間となります。東方向がよく見える場所で低空に雲がない日に金星をみつけてみましょう。